

<新品種・特許の紹介>

## 完熟タイプの極早生ウンシュウ新品種「みえ紀南3号」

紀南果樹研究室

紀南果樹研究室では高糖度な完熟タイプの極早生ウンシュウミカンの新品種「みえ紀南3号」を育成し、平成22年1月12日に品種登録出願しました（写真1）。すでに登録済みの「みえ紀南1号」に引き続いて収穫できる品種です。

○「みえ紀南3号」の特性

「みえ紀南3号」は「上野早生」の果実にできた種子を播いて育成した珠心胚実生のため、樹勢は強めです。開花時期や果実の大きさは「上野早生」とほとんど変わりません。果実の着色は「上野早生」と比べてやや早く果実糖度は1度程度高くなります。クエン酸の減少は「上野早生」より早く9月下旬には1%程度になり、9月下旬から10月中旬に収穫できます（表1）。また、「みえ紀南1号」や「崎久保早生」より熟期が遅く、完熟しても浮き皮の発生が少ないのが特徴です。

○品種登録されるのは来年度以降の予定です。苗木の供給はそれ以降になります。



写真1 果実の写真 (2008年10月14日)

表1 みえ紀南3号の果実品質 (3カ年平均)

系統名	調査時期	全重 (g)	横径 (mm)	着色歩合 (分)	糖度 (%)	クエン酸 (%)
みえ紀南3号	9月	66.0	53.6	0.1	10.5	1.29
	10月	83.3	58.1	6.0	11.5	0.67
上野早生(対照)	9月	68.1	53.7	0.0	9.6	2.37
	10月	95.2	59.5	2.7	10.3	0.96

調査日—2005年9月15日・10月4日、2007年9月13日・10月1日  
2008年9月1日・10月14日

## 特許「造粒システムおよび造粒方法」

園芸研究課

農業研究所は、従来、産業廃棄物として処理されている浄水場で発生する沈降汚泥（浄水ケーキ）や砂利採取の洗浄工程で発生する汚泥を鉢植やコンテナ栽培等の園芸用土に利用するために粒状化する加工技術である「造粒システムおよび造粒方法」を企業庁等との共同研究で発明し、平成22年3月に特許を取得しました。

○特許の内容

浄水汚泥は川水中に含まれる土砂を浄水工程で河沈降させた泥状物であり、重金属などのリスクが極めて低く、品質が一定であるなど園芸用土として優れた特性があります。このため、造粒すれば園芸用土としての有効利用が期待されます。発明した造粒システムは、乾燥ハウス内に設置したレーンに投入した汚泥を天日乾燥させながら、自走式の連続攪拌装置で連続的に攪拌させることで汚泥を直径2～10mmの乾燥した粒状物に加工するものであり、既存の造粒法に比べて機械設備コスト、ランニングコストとも極めて安価（機械設備は1/5以下）である点にあります。



攪拌機

造粒汚泥（培土）

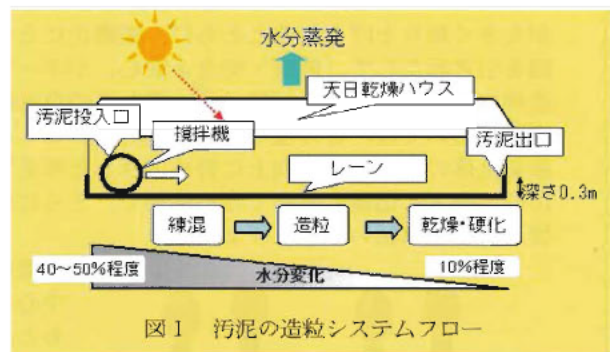


図1 汚泥の造粒システムフロー